

**第31回一関民俗芸能祭
女兒が南部神楽に初挑戦、会場から喝采**

市内の郷土芸能が一堂に会する「第31回一関民俗芸能祭」は3月13日、一関文化センター大ホールで開かれ、訪れた400人あまりの観客が神楽などの演舞に拍手を送りました。

当日は、13団体が出演。神楽、鹿子躍、田植え踊り、太鼓を各団体が熱演しました。

このうち真柴の牧沢神楽では阿部陽向ちゃん（滝沢小2年）と石川絢音ちゃん（4つ）が神楽に初挑戦。2人の堂々とした舞いとせりふに、会場から大きな拍手が送られていました。陽向ちゃんは「練習したとおりに踊れた」、絢音ちゃんは「今度は別の役もしてみたい」と話していました。



**千厩地域市民劇場で第13回どっから座公演
固い親子の絆が観客の心を揺さぶる**

第13回どっから座公演「仏坂の孝行息子善八の物語」（同実行委員会主催）は3月13日、千厩農村環境改善センターで開かれました。舞台は、江戸時代に千厩町磐清水の仏坂地区に実在した善八を描いた創作劇。年老いた父と病弱な母を支える善八は、物語終盤に両親を失います。しかし、その誠実さが認められ、新たな幸せをつかみました。

出演者、スタッフ総勢70人が一丸となって作り上げたステージに惜しみない拍手が送られ、千厩町小梨の千田たき子さん（80）は「互いを思う親子の姿に胸がいっぱいになった。若い人たちにこそ観てもらいたい物語だった」と感激していました。



**無病息災の願い込め、藤沢町長徳寺で蘇民祭
男衆の熱気みなぎる袋ねじり**

長徳寺（藤沢町保呂羽・渋谷真之住職）の蘇民祭は3月6日に行われ、見物客が見守る中、下帯姿の男たちが蘇民袋を奪い合って無病息災などを願いました。

近くの雉子川で頭から水をかぶる水垢離を終えた男衆は、燃え盛る井桁状に積まれた焚場に次々と上り「ジャッソー、ジョヤサー」と氣勢を上げました。2012年に半世紀ぶりに完全復活した蘇民袋争奪戦（袋ねじり）。今年は、市内外から50人が参加し、男衆が激しい肉弾戦を展開しました。復活後、初の取り主になった畠山克宏さん（47）は「念願がかなった。地元で愛される祭りとして続けていきたい」と話していました。



**木枠の中に広がる自由な世界
伝統工芸「東山和紙」の紙すきを体験**

「東山和紙の紙すき体験」（市主催）は3月12～28日、東山町長坂の（有）東山和紙の店「紙すき館」で行われました。同体験は、市内に住む小学生以上の住民を対象に行われ、和紙作りを楽しみ、伝統工芸への関心を高めよう企画されました。

この体験は、同館が観光客向けに行っているものと同じ内容。紙すき職人で同社代表取締役の鈴木信彦さんが指導しました。初日に訪れた同町田河津の高橋空さん（東山小2年）は、祖母の利江さんと一緒に紙すきに挑戦。「菜の花と梅をイメージしました」と出来栄に満足の様子を見せました。

**伝統行事「一歳児歩き初め会」に県内外から145組参加
一升の餅背負い、一生の幸せ願う**

「第15回一歳児歩き初め会」は3月5日、巖美町の「道の駅巖美溪」で開かれ、一升の餅を背負った1歳児が、家族の温かい声援を受けながら一生懸命歩きました。

同イベントは、一生分の苦勞に見立てた一升の餅を背負って歩き、子供の健やかな成長と幸せを願う伝統行事。法被に鉢巻き姿の1歳児が餅を背負い、保護者に支えられながら約5メートルを往復しました。

狐禅寺の橋本亜紀さん（31）は「上の子も参加した行事。つたえ歩きですが、なんとか歩いてくれた。いい記念になりました」と息子の篤哉くん（1）に優しいまなざしを向けました。



**本寺地域に人と春呼び込む「ほんでら春フェスタ」
さまざまなジャンルの楽しみ一挙に集結**

「ほんでら春フェスタ」は3月6日、骨寺村荘園交流施設で行われ、市内外から訪れた約350人がライブステージ、ハンドクラフト展やエクササイズなどを思い思いに楽しみました。

今年で2回目の同フェスタは、同施設の休憩所を追加会場として実施。参加者は、交流館でヨガなどのエクササイズ、休憩所ではハンドクラフト展や人気のカフェを楽しみました。風のシアターで行われたライブステージには、フラダンス、ロックやジャズなど多彩なジャンルの7組が出演。このうち、山目小学校スクールバンドは大人顔負けの演奏を披露し、来場者を魅了していました。



**18歳以上に選挙権が与えられる参院選に向けて
花泉高で本番さながらの模擬投票**

「一関市あかるい選挙啓発授業」は2月26日、花泉高校の多目的ホールで行われ、同校3年生39人が模擬投票に臨みました。同授業は、今夏の参院選から選挙権年齢が18歳以上に引き下げられることを受け、選挙や政治への関心を高めるために同校と市選挙管理委員会が実施。生徒らは、選挙の歴史や投票方法などについて講義を受けたあと、架空の立候補者へ投票。実物の記載台や投票箱を設置し、本番さながらの投票が行われました。

熊谷紗奈さんは「投票方法は思っていたよりも簡単でした。公約をよく見て候補者を選びたい」と話していました。



**市民が作る感動の舞台「一関藤沢市民劇場」
中米で活躍した写真家の半生を上演**

第17回一関藤沢市民劇場「屋須弘平物語『さくら』」（同実行委員会主催）は2月28日、縄文ホールで開かれ、約300人が迫真の演技に見入っていました。

「さくら」は中米グアテマラで活躍した同町出身の写真家・屋須弘平の波乱の人生を描いた物語。キャスト24人が屋須と彼を支えた人々を熱演しました。カーテンコールでは、キャストが揃って登場。会場からの大きな拍手に笑顔が浮かべました。

藤沢町砂子田の佐藤作子さん（80）は「出演者のいきいきとした表情が素晴らしかった。毎回楽しみにしています」と話していました。